

〇 北支事變ノ重大化ニ伴フ緊急地方長官會議ハ十五日午前開催、廣田外相以下各閣僚出席、
 近衛首相ノ訓示（近衛首相微恙缺席ノ爲メ馬場内相代讀）ニ次イテ廣田、杉山、米内、賀
 屋ノ四相ヨリソレソレ所管事項ニ關スル訓示、石射東亞局長ヨリ今次事變ノ發端。經過ニ
 關シ詳細ナル説明ヲ行ツタ。各長官ハ即日歸任政府ノ訓示ニ基キ事變處理ニ對スル政府ノ
 決意ヲ全國民ニ徹底セシムルコトトナツタ
 〇 十五日地方長官會議ニ於ケル近衛首相、廣田外相、賀屋藏相ノ訓示要旨左ノ如シ
 △近衛首相（略）
 △廣田外相（略）
 △賀屋藏相（略）
 △馬場内相（略）
 〇 北平同盟 十四日午後四時頃北平郊外南苑南方地區ヲ我カ騎兵部隊カ通過セントスル際支
 那軍隊ヨリ不法射撃ヲ受ケタルニ端ヲ發シ小衝突ヲ起シ、我方ニ戰死一名、負傷一名ヲ出

情報委員會七・一七 情報第七號

— 特輯情報 第八十六號 昭和十二年七月十五日 —

30

〇 北支事變ノ重大化ニ伴フ緊急地方長官會議ハ十五日午前開催、廣田外相以下各閣僚出席、
 近衛首相ノ訓示（近衛首相微恙缺席ノ爲メ馬場内相代讀）ニ次イテ廣田、杉山、米内、賀
 屋ノ四相ヨリソレソレ所管事項ニ關スル訓示、石射東亞局長ヨリ今次事變ノ發端。經過ニ
 關シ詳細ナル説明ヲ行ツタ。各長官ハ即日歸任政府ノ訓示ニ基キ事變處理ニ對スル政府ノ
 決意ヲ全國民ニ徹底セシムルコトトナツタ
 〇 十五日地方長官會議ニ於ケル近衛首相、廣田外相、賀屋藏相ノ訓示要旨左ノ如シ
 △近衛首相（略）
 △廣田外相（略）
 △賀屋藏相（略）
 △馬場内相（略）
 〇 北平同盟 十四日午後四時頃北平郊外南苑南方地區ヲ我カ騎兵部隊カ通過セントスル際支
 那軍隊ヨリ不法射撃ヲ受ケタルニ端ヲ發シ小衝突ヲ起シ、我方ニ戰死一名、負傷一名ヲ出

○十五日午後五時陸軍省發表 陸軍省ニ到着シタ北平、蘆溝橋ニ於ケル最近ノ狀況左ノ如シ
 一、本事業ニ對スル我國ノ強硬ナル決意ト學國一致ノ後援トハ支那側ヲ全ク狼狽セシメ殊ニ
 冀察側ノ上級幹部ハ已ムヲ得ス其態度ヲ變更スルノ必要ニ迫ラレ十二日午後七時頃永定
 河左岸ノ占領部隊ハ宋哲元ノ命ニ依リ衙門口ニ後退シ次テ十三日朝ニ至リ更ニ衙門口ヨ
 リ各防地ニ撤退シタルモノノ如シ、然レ共永定河西岸ニハ保定ヨリ北上セル第百九旅、
 固安ヨリ北上セル騎兵二團増加セラレタルカ如シ
 二、南苑部隊ハ張自忠統率ノ下ニ極メテ冷靜ヲ保チツツアリ又饒馬場附近ニハ第三十七師第
 二十五旅ノ一團アリ
 三、北平市内ニ於ケル戒嚴部隊ノ不法行爲ハ依然繼續セラレ容易ニ樂觀ヲ許サス殊ニ第二十
 九軍入市以來下級幹部ノ抗日思想ヲ反映シ邦人ニ對スル市中ノ人心急速ニ險惡シアリ、
 依テ我カ北平武官ハ「速ニ北平ノ戒嚴ヲ停止シテ防禦工事ヲ撤去シ且日本人ノ安全ヲ保
 障スヘキ事ヲ要求セルニ」之ニ對シ「冀察側ヲ通シ一時保護ヲ加ヘタル日本人ハ直ニ釋
 放スヘキモ戒嚴ハ尙暫ク續行スル」旨回答セリ

四、北平市民ハ同市カ兵亂ノ巷ト化スル事アルヲ極度ニ懸念シ商務會長以下有力者ハ第二十
 九軍ニ城外撤退ヲ懇願セリト

五、永定河西岸長辛店ニハ第二一九團ノ外第一〇九旅及萬福麟軍ノ三個團集結シアルモノノ
 如ク又良郷ヨリ固安ニ亘ル間ニ騎兵四個聯隊配置セラレアルモノノ如シ

六、宋哲元ハ前敵司令ニ任命セラレ其處置ニ窮シ十三日夜遁走シ目下行方不明ノ狀況ナリ
 ○十五日現在迄ノ同盟通信ニ據ル支那側軍事行動概況

一、十五日朝三機編成ノ戰機南京經由北方ニ向ツタカ三五五飛來飛去シテ午前十時ニ至
 ルモ爆音絶ヘス又前線ヘノ軍需品輸送ハ一層活潑トナリ十四日午後ヨリ十五日午前ニカ
 ケ南京城内各停車場ヨリ銃砲彈、方ソリンノ列車ニ依ル大量輸送カ行ハレル

二、南京政府ハ十五日ヲ期シ第二期作戰準備ニ移リ今迄動員令ヲ下シタモノノ外安徽、江南
 兩省駐屯ノ特科隊ニ對シテ動員開始ヲ命シタ

三、中央軍ハ河北、河南省境漳河ノ南岸平漢線ヲ中心ニ東西兩側一帯ニ亘リ深サ十六尺、幅
 自動車二臺往來シ得ル大規模ノ蘆壕構築中テ、交通兵三、四百名指揮ノ下ニ土民壯丁隊
 ヲ使用工事ヲ急キツツアル

四、平漢沿線主要地點ニハ燈火管制カ施行サレ、高射砲其他ノ防空施設カ整備サレテキル
 五、蔣介石氏ハ財政部ニ軍費五千萬元ノ調達ヲ命シタ

六廣東軍八十四日第百十師ノ北上ヲ命スルト共ニ空軍二隊約四十機ニ出動準備ヲ命令シタ
○「同盟」 共產軍ノ朱德、毛澤東等ハ十三日廬山ノ蔣介石氏ニ對シ「國民革命軍ノ一分子トシテ吾等ハ中央ノ命令一下所屬部隊ヲ擧ゲテ國防ノ最前線ニ立ツテアラウ」トノ北支戰線ヘノ參加ヲ電請シ來ツタカコノ程或ル種ノ指令ヲ受ケ陝西省北部共產地區ハ俄然活氣ヲ呈シテキル様子テ、某方面ノ情報ニヨリハ既ニ共產軍一部隊ハ十三日夜半根據地延安ヲ出發、何レヘカ出動シタト云ハレテキル

○「同盟」 今井武官ハ十三日冀察當局ニ對シ抑留日本人ノ釋放、交通ノ恢復、戒嚴令ノ撤廢等ニ就キ注意ヲ喚起シ、冀察當局モ右實行ヲ約束セルニ拘ハラズ、殆ント現實ニ履行サレサルノミカ、北平城内ノ抗日運動ハ日ト共ニ熾烈化シ、全市ノ要所ニハ各種ノ不穩ナル抗日字句ヲ竝ヘテ「ピラ」カ多數貼布サレ從來ニモ増シタ不愉快ナ抗日示威力行ハレテキル、一方南京ニ於テモ十五日南京各界ノ民衆團體代表大會力開カレ、抗敵抗日會ヲ組織シ大々的ニ慰問品ノ蒐集ニ乘出スコトトナツタ、又今マテ比較的冷靜テアツタ廣東市ニ於テモ出兵通電ノ發出抗日「アジ」カ熾シニ行ハレテキル

○「同盟」 北平在住ノ邦人婦女子ニシテ既ニ引揚ケチシタモノ四、五百名ニ達シ今ナホ續々引揚ケ中テアルカ、山西省太原ノ邦人六名モ十三日飛行機テ漢口ニ引揚ケタ

○北平同盟 駐支「フランス」大使館參事官「ラコスト」氏ハ「ナジャール」大使ノ代理ト

シテ十五日加藤書記官ニ對シ萬一北平城内ノ治安カ攪亂サレル場合、日本軍ニヨリ「フランス」居留民保護並ニ通州附近ノ「フランス」資本ニヨル「ガラス」工場ノ利權ヲモ保護サレタイト申入レタ
○十五日午後八時十分陸軍省發表 北支ノ現勢ニ鑑ミ本十五日内地ヨリ一部ノ部隊ヲ派遣スルコトニ決セラル

秘

情報委員會七・一七 情報第一一號

同盟來電（十七日） 不發表

パリ十六日發 支那の覺書要旨

ハヴアス通信社ロンドン支局が國民政府覺書内容として傳へる所次の通り

一、事件は七月七日夜蘆溝橋に於ける日本軍の演習を以て始まつたが、日本軍は同地で演習する権利がない、蓋し一九〇一年北清事變に關する最終議定書第九條には蘆溝橋、宛平、豐臺などの地點は演習地に含まれてゐないからである、日本政府が同議定書の條項を援用し如何に曖昧且時代遅れの主張を爲さうとも到底同地帯に於ける日本軍の存在竝に示威的演習の事實を正當化することは出来ない

二、日本軍は夜間支那軍が駐屯してゐる都市に實力を以て入市を企て支那軍の抵抗に遭つたものである

三、今や北平竝に天津兩市附近には數百臺の日本軍用機竝に二萬餘の日本軍隊が集結、待機中である

31